

霧島ふもとの駅 代表者

わ だ しん ぞう
和田 新 藏 さん (80才)

(鹿児島県霧島市^{きりしまし})



スーパーがなくなり、困った人たちを見かね、私財を投じて作った物産館は、農作物を販売する場所ができ農家にも利益をもたらしました。地域全体のことを考え、地域のお父さんのような役割を担いながら、本人も含めて地域に暮らす人々の生きがいに貢献。御年80歳、次の目標にむかって行動する姿は素晴らしいライフスタイルと高く評価されました。



■受賞の内容

19歳の1958年に故郷、鹿児島県霧島市牧園町から就職列車に乗り大阪で就職。

自然豊かな故郷で子育てをしようと1985年3月妻と子供二人を出身地牧園町に移住させ、私は仕事の関係で単身赴任の形で大阪府枚方市に在住したまま月に1回、1週間程度帰郷する生活を23年間過ごしました。

1989年から2007年までの18年間は、大阪府枚方市印田町街づくり促進会の代表発起人、事務局長を務め印田町で、地主から借りた土地をラジオ体操等の「ちびっこ広場」として利用し、その後その広場の代替地を探すため、新しい地主の了解を得て要望し、市営公園にしました。

故郷では450年前、島津の殿様が作った東光寺の跡地に麓地区の墓地を改葬する事業が1984年3月にはじまり、発起人会の事務局長となり、関西、関東の墓地所有者の意向確認調査に3年かけ、その後、改葬事業に10年を費やし、牧園中央霊園と生まれ替わりました。2007年3月に故郷に戻り、30年間耕作放棄地だった田を優良農地に甦らせ、近所の牧園小学校と麓地区街づくり促進会と地元のお年寄り総勢130名参加したサツマイモの苗植え祭り、収穫祭、さらに物産館での販売体験を実施させました。

2014年、近くにあるJAのスーパーが閉鎖し自動車の運転のできない高齢者の買い物難民化を打破するために「終の棲家(自宅)」を取り壊して、隣接地を買い増しして、物産館「霧島ふもとの駅」(施設300坪、総面積1200坪駐車場60台)は公的資金を使わず建設、

和田代表をはじめ約10名が出資して2018年7月21日にオープンしました。

霧島ふもとの駅は、「子供達の体験学習の町づくり」を大きなテーマに掲げ、新鮮野菜や加工品を販売する「笑顔市場」、飲食を提供する「笑顔亭」、軽食コーナーの「茶ちゃランド」3つの機能をもつ交流拠点です。それぞれの名前は、小中高生から公募して命名しました。地元の皆さんの交流の場として、スタッフは約20名、出荷者は約190名。地元の雇用の場として貢献しています。

今後は、100年続く街づくりの礎として、子どもたちの体験学習のプログラムづくり、昔懐かしい小川でメダカや沢蟹と遊べるような親水公園づくり、誰もが汗を流して農作業できる市民農園、都市部からUJIターンしたくなる移住者団地などの構想実現に取り組みたいと、80歳の今も情熱を燃やしています。

■受賞者と農山漁村との関わり

【移住】12年(Uターン)

【地域での実践活動】35年

■写真の説明

(写真左) 霧島ふもとの駅前と和田新藏さん

(写真中央) 収穫祭「耕作放棄地に愛の手を!!」

(写真右) 霧島ふもとの駅全景

■連絡先

〒899-6507 鹿児島県霧島市牧園町宿窪田2125-1

☎ 090-7357-7127